

第70回国立大学法人山梨大学学長選考会議議事要録

日 時：令和2年6月26日（金） 14：35～15：10

場 所：本部棟5階第一会議室

出席者：丸茂、北島、進藤、清水、中村（和男）、中村（和彦）、中尾、熊田、奥田、古家、佐藤の各委員

欠席者：奥村委員

陪席者：鮎川監事、八巻監事、袖山理事、小林総務部長、田中監査課長、植松人事課長、伊藤人事課長補佐、細野人事課係長、城人事課係員

会議の成立及び配付資料の確認

人事課から、過半数の出席により本会議が成立していることの報告及び配付資料の確認が行われた。

議事要録の確認

第69回国立大学法人山梨大学学長選考会議議事要録（案）（令和2年5月29日開催）を確認した。

議題

1 学内意見聴取の結果について

議長から、資料1及び資料2により次のとおり説明があった。

- 6月4日から12日までの間、対象者563名に対し意見聴取を実施したところ、42件の意見が寄せられた。
- 学長選考会議の意向に賛成する意見19件のほかは、島田氏の業務実績や運営に対する否定的な意見は1件のみで、その他は再任ルールや選考会議のあり方に対する意見であった。

2 学長再任審査について

学内意見聴取の結果を踏まえ審議した結果、島田氏を次期学長候補者として再任することを全会一致で承認した。

引き続き、議長から、公示及びプレスリリースの内容について、配付資料により説明があり、これを確認した。

3 その他

議長から、学長選考の公正性等を確保する観点から、資料1に対する学長選考会議としてみ解を学内に示したい旨、資料3により説明があり、これを確認した。

これに関連して、以下の意見があった。なお、議事要録の記載内容については、他大学の状況も参考に検討することとした。

- 学長選考会議の委員の決め方、審議内容の公表について、検討する必要があるのではないか。
- 学長選考会議の委員の選考は、国立大学法人法やガバナンス・コードに基づく本

学規程に従っているものなので、経営協議会や教育研究評議会での議論が重要ではないか。

- 選考会議において、島田氏の再任は可能なのか、規程改正が必要ならばどう修正するかと、長時間議論して決めたものである。学外委員が構成員に対し直接説明することは難しいので、学内委員から丁寧に経緯等を説明していく必要があるのではないか。
- 選考会議に対する信頼が損なわれることのないよう、可能な範囲で議論の内容等を公表すべきではないか。
- 議事要録に発言内容まで記載されていないので改善の余地はある。選考会議が機能していることを示す意味でも重要であり、誰が発言したかは公開しないまでも、どのような議論がなされたかもう少し詳しく記載する必要があるのではないか。
- 現在のような状況の中で、大学、特に地方大学は危機的な状況にある。その危機感が学内に共有されているのかということを感じている。そのような危機を乗り越えていかなければいけない状況下において、強いリーダーシップを発揮している島田氏ならできると判断し、再任に賛成した。
- 私立大学では理事長と学長は別人が配置され、それぞれ分業で任務にあたっているが、国立大学は私立大学と異なり、学長が経営と教学の両方を統括しなければならない。近頃、山梨大学の知名度が上がったと評判を聞いている。
- 規程を改正してまで島田氏の再任とした背景には、大学のおかれた状況に外部委員は重大な危機感を感じているということである。その状況の中で大学を引っ張っていくことができるのが島田氏だと判断した。

以上